

株式会社メディビック

第6期 中間事業報告書
2005.1.1 ▶ 2005.6.30



MediBic

個人に適した、より安全でより有効な医療を目指して、ユニークな経営戦略を

ITを駆使した創薬支援事業です。研究データシステムの開発業務、研究データの管理・解析業務等を行っています。国内外企業との提携により、提供できる製品・サービスの幅の拡大と質的向上に努めています。

遺伝子治療、細胞治療、再生医療のための細胞加工・製造施設の設計、設備・機器等の選定支援及び維持運営サービスの提供を行う事業です。

インフォマティクス
Informatics Business

コンサル
Consulting

先端医療
Advanced Medical
Technology Service

Highlights

- ・インフォマティクス事業の方向性 ⇒(P3)
- ・ライフサイエンス分野への投資・投資育成 ⇒(P5)

コンサルティング
Consulting Business

創薬の各専門領域に必要なアドバイスを提供する、
当社の基本事業です。

基礎研究分野

臨床開発分野

事業支援

展開しています。



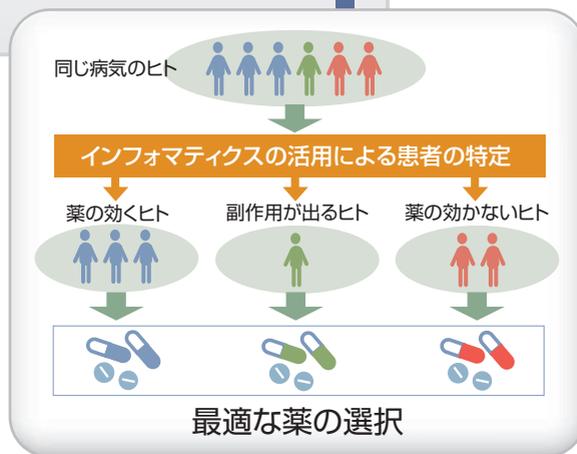
ライフサイエンス業界における投資銀行業務を行う事業です。資金提供のみならず、経営面・事業面における複合的なアドバイス及び事業遂行支援を、メディックグループのリソースを集約して提供していきます。

新薬開発を行う事業です。テーラーメイド創薬[®]、即ち、薬の効き方や副作用の発症に影響を与える因子を、インフォマティクス技術を用いて解析し、患者に最適な薬を開発することを目指します。

研究戦略、効率的な投資配分の計画立案、化合物ライブラリの設計、遺伝子情報を用いた実験設計等。

グローバル開発戦略、試験計画立案支援サービス及びファーマコゲノミクス・先端医療技術等、特殊な臨床試験分野における試験戦略。

事業戦略立案、株式上場支援等、企業の成長ステージに合わせた事業支援に関するコンサルティング。



インフォマティクス事業の方向性

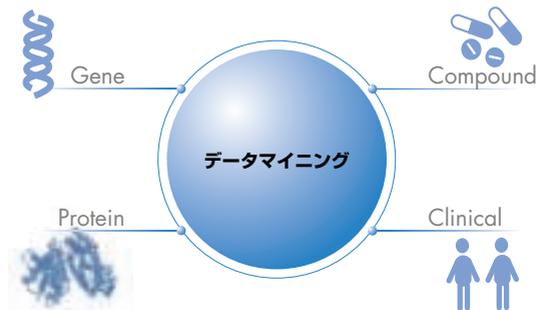
ファーマコゲノミクス（Pharmacogenomics：ゲノム薬理学）に基づく技術開発から始まったインフォマティクス事業は、2004年12月期に転換期を迎え、バイオマーカー（遺伝子情報、プロテオミクス情報をはじめとした生体の特性や変化の指標）探索を支援する、総合的な技術サービスへと業務の幅を広げています。2005年12月期は、営業活動によって、これら技術の国内研究開発市場への提供に努めるとともに、細胞機能解析等、欧米で主流になりつつあるバイオマーカー探索技術の国内導入の支援を進めています。

■メディビックのコア技術

データマイニング

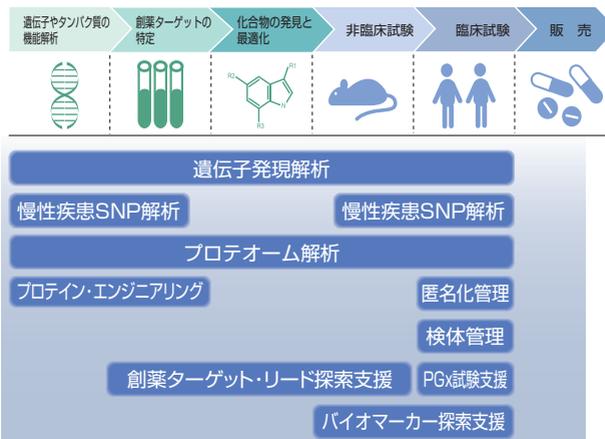
マイニング (Mining) とは、そもそも「採鉱、採掘」という意味の、鉱山から役に立つ鉱石を掘り起こすイメージの言葉です。それが転じて、蓄積した膨大なデータの中から、意味のある相関関係や有効なパターンを発見する技術のことを、データマイニングと呼ぶようになりました。

当社の行うデータマイニングとは、医学的に意義のある結果を導き出すために、バイオマーカーの違いや変化、さらにはそれらと病気や薬との関連性を解析する技術を言います。



当社では、データマイニング技術を、顧客の研究開発に応じた、様々な形態で提供するとともに、新薬候補化合物について、薬の効き方や副作用の発症に影響を与える因子を解析し、個人に適した、より安全でより有効な医療の実現に貢献する方針です。

メディビックのインフォマティクス技術



■売上構成比の変化

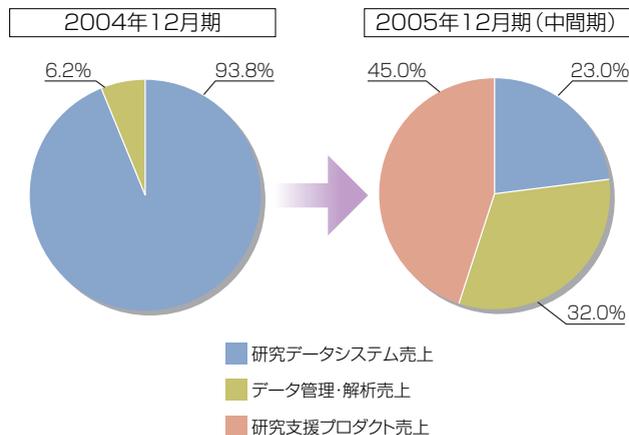
研究データシステム依存型からバイオマーカー探索支援型へインフォマティクス事業における売上は、従来研究データシステム開発に伴う売上が大部分を占めていましたが、2005年度は、「データ管理・解析サービス」や「研究支援プロダクト販売」の売上比重が高まっています。

顧客のバイオマーカー探索を支援するソリューションとして、研究データシステム単体で提供するのみならず、

データ管理・解析業務と組み合わせて提供することや、研究に関連するプロダクトを、活用方法のコンサルティングも含めて提供することを求められる機会が増えてきています。

当社では、このように、インフォマティクス技術を複合的に提供することによって、売上安定化と付加価値増大を目指す方針です。

インフォマティクス事業売上構成比の変化



「研究データシステム開発業務」

研究データの管理・解析が効率的に行えるよう顧客のニーズに合わせたカスタマイズを施し、オリジナルのシステムを構築したり、パッケージソフトの共同開発・販売を行う業務です。また、これらのシステムの自社利用により、以下のデータ管理・解析業務を行っています。

「データ管理・解析受託業務」

臨床データ・遺伝子データの管理や、それらデータの中から意味のある相関関係や有効なパターンを導き出したり、予測モデルを構築したりすることを受託する業務です。遺伝子多型(SNPs)データ解析、遺伝子発現データ解析のみならず、数値化が可能なあらゆる解析に対応しています。

「研究支援プロダクト販売業務」

米国バイオ企業が開発した製品のうち、国内の遺伝子研究機関におけるニーズがあり、かつ、当社と技術的な相乗効果が見込める製品の、国内導入の支援を進めています。

ライフサイエンス分野への投資・投資育成

グループ会社である、株式会社メディビック・アライアンスは、業界内外からのニーズの高まりを受け、本格的に投資銀行業務を開始しました。

「人」「スピード」「融合」「イノベーション」をキーワードに、アジアを中心とした世界中のライフサイエンス企業に対し、事業支援・ファイナンシャルサービスを提供いたします。

■基本ポリシー

企業の評価に関してもっとも重視する点は、「人」であり「マネジメントチーム」です。

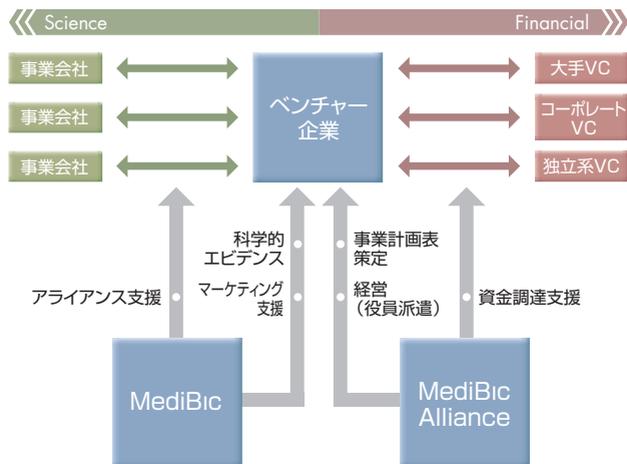
～技術・ビジネスモデルは時代の流れとともに変化するが、人は変わらない～

という考えを基本に、企業の価値を上げることの社会的「影響」「責任」について充分に対話し共感することがで

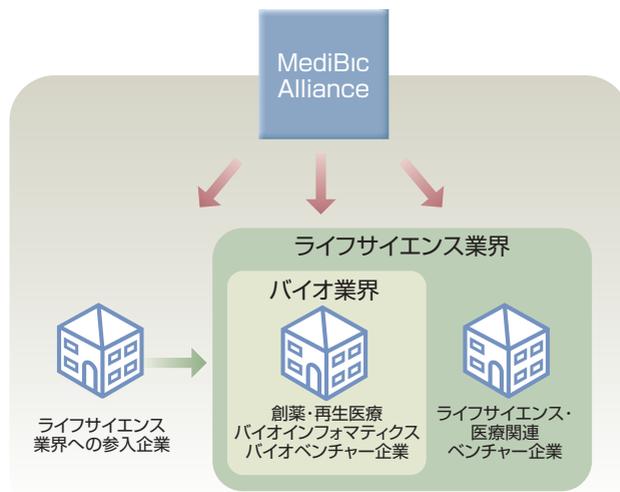
きる経営者・マネジメントチームを中心に、投資・インキュベーションを行っていきます。

メディビックの技術評価と、メディビック・アライアンスの財務評価で、総合的にデューデリジェンスを行った上で、事業支援を行っています。

メディビックとメディビック・アライアンスの「共同」事業支援



投資対象分野



■メディビック・アライアンスの事業内容

メディビック・アライアンスは、ベンチャー企業に対して単なる資金提供のみならず、経営面、事業面における複合的なアドバイス及び事業遂行支援を行います。

●投資業務

世界的な産業のボーダレス化に伴い、既存のライフサイエンス産業のプレーヤーだけでなく、他産業からの参入を検討している企業への投資・サポートも行います。

●ファンド業務

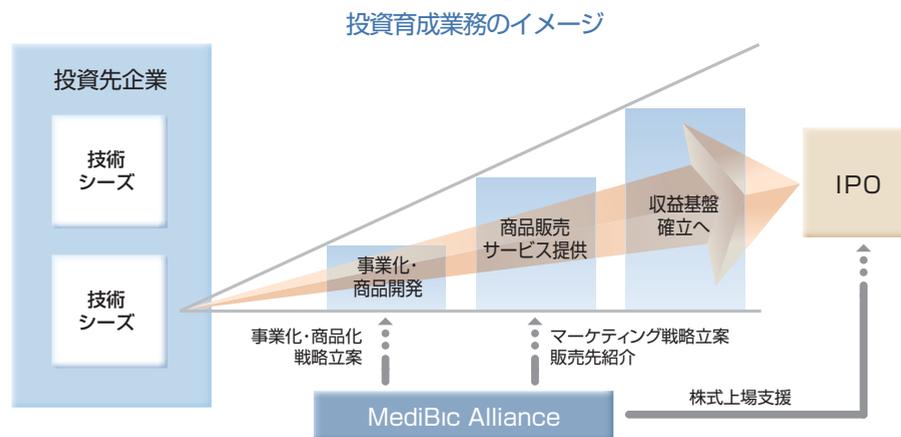
先端技術ファンド、個別投資ファンドなど多彩な投資ファンドを組成します。またライフサイエンス分野の目利きとしての投資顧問も行います。(投資顧問業登録関財第1377号)

●M&Aアドバイザリー業務

M&A候補先の選定及び紹介、M&Aによる企業価値の向上のための戦略的アドバイス、財務的アドバイス、M&A後の統合プロセスなどにつき総合的なアドバイスを行う体制を整えました。

●投資育成業務

商品開発、マーケティング、販売戦略立案、資金提供、資金調達のアレンジ、事業計画立案・実行など、成長ステージに合わせたサポートをマネジメントチームと一体となって行います。



ライフサイエンス分野に特化したMERCHANT BANK (投資銀行) として、業界全体の活性化を目指すと同時に、メディビックグループの新しい事業機会発掘及び収益機会拡大の役割を担います。

メディビックの事業展開 —2005年度上期—

メディビックのグループ経営

2005年4月

(株)SeedSeekを設立。

事業概要：バイオテクノロジー、医療及び医薬品等の研究開発に関わる情報収集・情報提供

2005年5月

上海駐在員事務所を開設。

概要：アジア圏でのビジネス展開の拠点として情報収集を強化

2005年6月

投資銀行業務の開始。

概要：子会社(株)メディビック・アライアンスの事業拡大

メディビックの提携戦略

2005年2月

NuGEN Technologies, Inc.

事業内容：ゲノムやたんぱく質の検出技術・増幅技術の開発・販売
提携内容：微量RNA増幅技術販売

2005年3月

倉敷紡績(株) バイオメディカル部

事業内容：バイオ機器等関連製品の製造・販売、DNA合成及び受託解析
提携内容：遺伝子データマイニングサービスの提供

2005年3月

第一製薬(株)

事業内容：医薬品等の研究開発、製造及び販売並びに輸出入等
提携内容：医薬品開発ベンチャー向け投資ファンドの共同設立

2005年4月

ReaMetrixグループ

事業内容：細胞機能解析ソリューションと試薬の製品開発、製造
提携内容：細胞機能解析の新規ソリューションの共同開発及び販売

バイオマーカー探索の重要性

バイオマーカーとは、正常な状態、病気の状態、あるいは薬の効果において、客観的に計測・評価できる生物学的指標を言います(*)。これは、遺伝子情報・プロテオミクス情報だけでなく、グルコース等、生体内の組織や代謝物等のあらゆる変化の指標を含む、広い概念です。

従来の臨床試験では、病気との関連性が認知されているバイオマーカー(例:糖尿病とグルコースなど)と、期待する新薬候補化合物の効能(例:グルコース値を下げる)の関連性が認められるバイオマーカーは承認審査のデータとして採用されてきましたが、それ以外のバイオマーカーについてはあまり深く研究されずにいました。

しかし近年の遺伝子研究の結果、市販後に発売中止になった新薬の中には、臨床開発中は全く想定していなか

った、特定のバイオマーカーを持つ患者に限って、副作用が認められることが明らかになってきました。

例えば2002年に国内で承認された肺がん治療薬、「イレッサ」は、市販後、予想以上の副作用と死亡数が指摘され社会問題になりました。しかし、その後の研究により個人によっては薬の効き目があることが分かり、薬の有効性と副作用の有無を事前に確認できるバイオマーカーが求められ、研究されています。

また、欧米をはじめとして世界各国で、研究開発の初期段階から予めバイオマーカーを探索して、臨床開発の期間とその費用を抑えることにより、効率的な研究開発を行う動きが活発になってきています。

* FDA, Pharmacogenomic Data Submissions March, 2005 参照

2004/4/29

肺がん用抗がん剤「イレッサ」、効き目は遺伝子の変異で差～米がん研究所と名古屋市大

副作用で多数の死者を出した「イレッサ」がEGFR遺伝子で突然変異を起こしている患者に効くことを米科学誌で発表。

2005/1/20

「イレッサ」使用、当面継続へ。副作用で注意喚起～厚生労働省

副作用死や延命効果が疑問視された「イレッサ」について、厚生労働省は「現時点で使用を制限する必要性は乏しい」との見解を発表。

2005/3/24

「イレッサ」使用継続、東洋人に効果～厚生労働省

厚生労働省は製造元のアストラゼネカ社が提出した「東洋人には延命効果がある」との臨床試験結果について信頼性ありとの見解を発表。

2005/5/15

がん縮小後の延命効果なし～米医師グループ発表

放射線と抗がん剤での治療を終えた患者に「イレッサ」を使っても、延命効果がなかったと米医師グループが発表。

2005/6/17

「イレッサ」新規投与を禁止～米食品医薬品局

米食品医薬品局(FDA)は副作用が重く肺炎による死者が多発したことから、新たな患者には「イレッサ」を使うべきでないと警告。

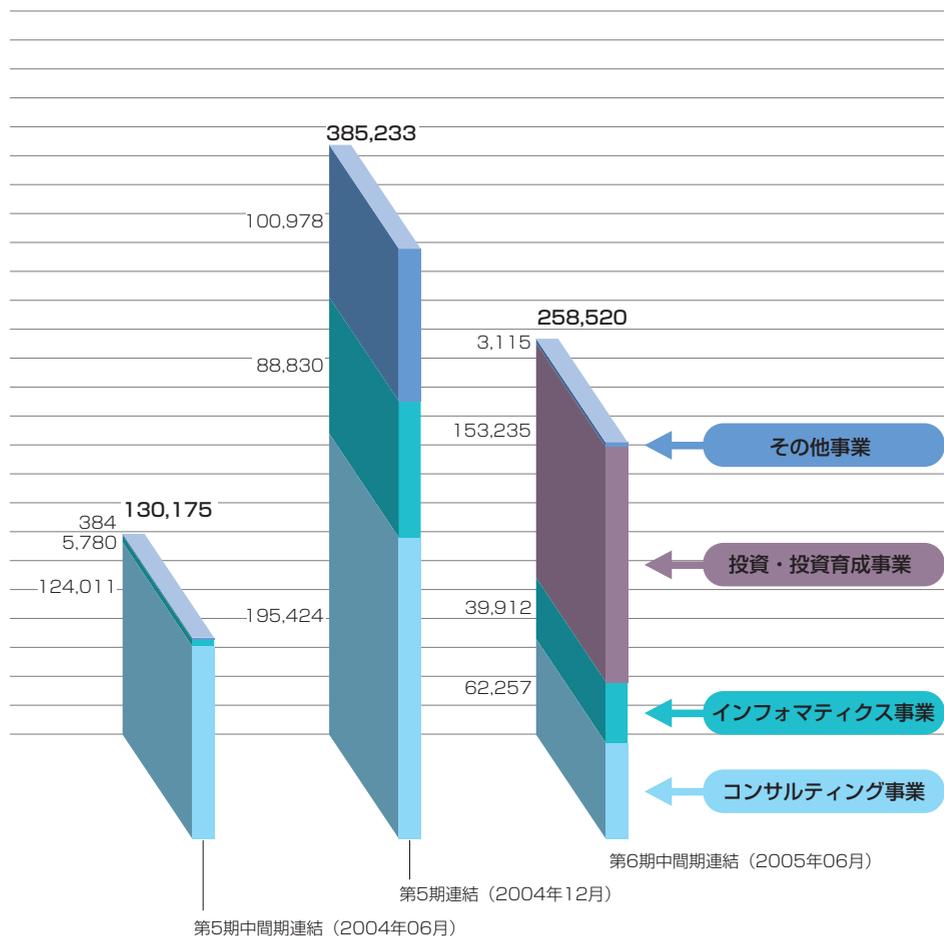
2005/6/30

有効性診断の臨床研究へ～神奈川県立がんセンターと東京大医科学研究所

「イレッサ」について、個々の患者への有効性を投与前に血清で診断するための臨床研究を7月から始めると発表。

第6期中間期営業活動のご報告

■ 事業別売上高の推移（単位：千円）



※当社は第5期が連結初年度であります。

■ 主要経営指標の推移

	第5期中間期連結 '04/06	第5期連結 '04/12	第6期中間期連結 '05/06
売上高 (千円)	130,175	385,233	258,520
経常損失 (千円)	265,390	611,956	257,173
中間（当期）純損失 (千円)	266,405	632,462	257,147
株主資本 (千円)	2,264,473	2,019,490	2,350,585
総資産 (千円)	2,298,963	3,482,469	3,231,236
株主資本比率 (%)	98.5	58.0	72.8

● 営業の概況

当中間期において、インフォマティクス事業では、細胞機能解析等、欧米で主流になりつつあるバイオマーカー探索技術の国内導入支援を進めています。(P.3-4 参照) 投資・投資育成事業においては、(株)メディック・アライアンスがライフサイエンス企業を対象とした投資銀行業務を開始いたしました。(P.5-6 参照) 当社グループで

は、独自の国内外情報収集力と専門技術分野における評価技術を活かし、顧客の様々な要望に対応する事業を展開してきました。結果として、当中間期の売上高は、258,520千円（前年同期比98.6%増）、経常損失257,173千円、中間純損失257,147千円となりました。

● 部門別の状況



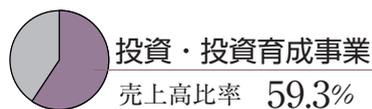
コンサルティング事業においては、前期より着手している再生医療での確認申請支援や製造管理支援などの案件において着実な売上が確保できました。また、海外連携企業との協業による国内企業の米国FDA（US Food Drug Administration）への申請支援や国内申請支援において、新規の受注を獲得しました。しかし、大型案件の受注が前期に比べ減少したこと、また、投資・投資育成事業の本格化に伴うリソースの再配分による受注件数の微減により、コンサルティング事業の連結売上高は、62,257千円（前年同期比49.8%減）となりました。



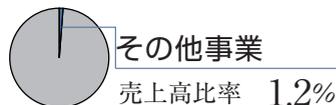
インフォマティクス事業においては、前期に提携いたしました Strand Genomics社（インド）との共同開発による遺伝子発現解析システムavadisの提供、遺伝子データ相関解析サービスの提供及び国内外のバイオ関連データベースの販売等で新規の受注を獲得しております。NuGEN Technologies, Inc.社（アメリカ）との共同ソリューションでは、より微量なサンプルからもRNAの増幅が可能となる技術の提供を開始し、サービスの幅を広げました。結果として、インフォマティクス事業の連結売上高は、39,912千円（前年同期比590.5%増）となりました。

● 今後の課題と通期の見通し

下半期においては、コンサルティング事業では、再生医療分野に関するコンサルテーション並びに国内外の申請業務支援を中心に安定した受注の確保に努めていくとともに、他事業への専門的な支援を強化することで、グループ全体の収益確保に貢献してまいります。インフォマティクス事業においては、情報処理システムとデータ管理・解析業務や研究に関連するプロダクトを組み合



投資・投資育成事業においては、平成17年6月23日、(株)メディック・アライアンスが当社のコンサルティング事業を通じて拡大する投資育成ニーズ、ファンド組成などによる投資ニーズを受け、ライフサイエンス企業を対象とした投資銀行業務を開始いたしました。国内外の有望なベンチャー企業等に対して資金提供のみならず、経営面・事業面における複合的な支援サービスを提供し、その企業価値を高めることを目標としております。また、投資育成の一環として、投資先企業等の扱うライフサイエンス関連商品の販売及び販売支援を行っております。結果として、投資・投資育成事業の連結売上高は、153,235千円となりました。



その他事業においては、細胞加工センターの開設・運営支援を行う(株)アドバンスト・メディカル・ゲートウェイの事業活動が、堅調に稼働しております。結果としてその他事業の連結売上高は、3,115千円（前年同期比710.6%増）となりました。

わせたソリューションの提供によって、売上の獲得と利益率向上を目指します。投資・投資育成事業においては、当社の強みである国内外のネットワークを活かし、投資先の企業価値向上に努めてまいります。通期の連結業績予想につきましては、売上高809百万円、経常損失346百万円、当期純損失348百万円を見込んでおります。

* 業績予想については、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものです。様々な要因の変化により、実際の業績は本業績予想と異なる可能性があることをご承知おき下さい。

財務諸表

中間連結貸借対照表

単位：千円、単位未満切捨

科 目	当中間期末 (第6期中間期)	前期末比 (%)	前期末 (第5期)
資産の部			
流動資産	2,601,155	103.8	2,505,091
現金及び預金	1,258,893	71.7	1,754,610
受取手形	7,627	—	—
売掛金	148,933	71.9	207,154
商品	8,738	—	—
営業投資有価証券	649,200	—	—
前払費用	2,657	66.0	4,027
前渡金	519,600	100.0	519,600
未収消費税等	5,151	29.1	17,730
その他	353	17.9	1,968
固定資産	630,081	64.5	977,378
有形固定資産	28,041	94.3	29,729
建 物	8,843	85.4	10,353
工具器具及び備品	19,197	99.1	19,375
無形固定資産	98,302	450.0	21,844
電話加入権	144	100.0	144
ソフトウェア	12,444	57.3	21,700
販売権	85,714	—	—
投資その他の資産	503,737	54.4	925,804
投資有価証券	406,241	53.4	760,493
関係会社株式	56,237	44.1	127,609
差入敷金・保証金	41,032	110.8	37,022
その他	226	33.3	678
資産合計	3,231,236	92.8	3,482,469

科 目	当中間期末 (第6期中間期)	前期末比 (%)	前期末 (第5期)
負債の部			
流動負債	65,601	42.5	154,279
買掛金	6,599	7.2	91,734
未払金	214	—	—
未払費用	38,614	72.6	53,170
未払法人税等	6,287	140.1	4,487
未払消費税等	720	411.4	175
前受金	10,938	758.0	1,443
預り金	2,226	68.1	3,267
固定負債	810,771	62.2	1,303,731
社債	800,000	61.5	1,300,000
繰延税金負債	10,771	288.7	3,731
負債合計	876,372	60.1	1,458,011
少数株主持分			
少数株主持分	4,278	86.1	4,967
資本の部			
資本金	1,423,364	123.3	1,153,946
資本剰余金	1,956,629	116.0	1,687,212
利益剰余金	△1,044,493	—	△817,744
その他有価証券評価差額金	15,141	—	△3,869
自己株式	△55	100.0	△55
資本合計	2,350,585	116.4	2,019,490
負債、少数株主持分及び資本合計	3,231,236	92.8	3,482,469

中間連結損益計算書

単位：千円、単位未満切捨

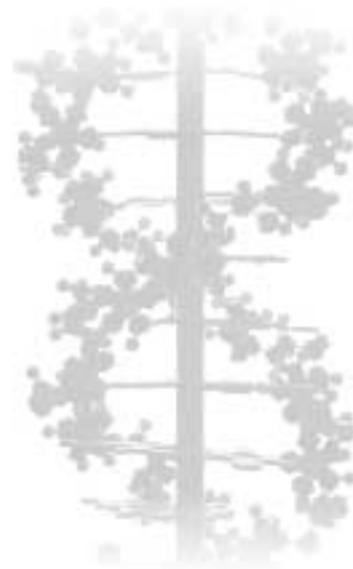
科 目	当中間期 (第6期中間期)	前年同期比 (%)	前中間期 (第5期中間期)
売上高	258,520	198.6	130,175
売上原価	193,421	227.2	85,115
売上総利益	65,098	144.5	45,060
販売費及び一般管理費	293,785	95.7	307,018
営業損失	228,687	87.3	261,958
営業外収益	1,327	56.2	2,360
受取利息	205	235.6	87
受取助成金等	833	39.8	2,092
雑収入	288	160.0	180
営業外費用	29,813	514.7	5,792
支払利息	34	—	—
新株発行費	2,617	144.4	1,812
為替差損	522	14.1	3,700
投資事業組合等損失	5,103	—	—
持分法による投資損失	20,625	—	—
雑損失	910	325.0	280
経常損失	257,173	96.9	265,390
特別利益	855	—	—
関係会社株式売却益	855	—	—
税金等調整前中間純損失	256,318	96.6	265,390
法人税、住民税及び事業税	1,518	149.7	1,014
少数株主損失	689	—	—
中間純損失	257,147	96.5	266,405

中間連結キャッシュ・フロー計算書

単位：千円、単位未満切捨

科 目	当中間期 (第6期中間期)	前中間期 (第5期中間期)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 223,671	△ 243,966
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 318,779	△ 476,695
財務活動によるキャッシュ・フロー	36,215	32,317
現金及び現金同等物に係る換算差額	518	△ 3,814
現金及び現金同等物の減少額	△ 505,716	△ 692,158
現金及び現金同等物の期首残高	1,754,610	2,399,536
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,248,893	1,707,377

※連結対象子会社は(株)メディック・アライアンス、(株)アドバンスト・メディカル・ゲートウェイ及び(株)SeedSeekの3社であります。



会社の概況 (2005年6月30日現在)

設立 : 2000年2月17日
資本金 : 14億2,336万円
所在地 : 〒100-0013
東京都千代田区霞が関1-4-2
大同生命霞が関ビル8F
TEL:03-5510-2407
※2004年11月7日をもちまして
上記に移転いたしました。

事業所 : 〒650-0047
兵庫県神戸市中央区港島南町
5-5-2 KIBC 6F

従業員 : 28名

主要取引銀行 : 株式会社三井住友銀行 日比谷支店
株式会社東京三菱銀行 新橋支店
株式会社UFJ銀行 新橋支店

グループ会社 : アネクス・ファーマシューティカルズ・インク
(株)アドバンスト・メディカル・ゲートウェイ
(株)メディビック・アライアンス
(株)SeedSeek

取締役

代表取締役社長	橋本康弘
取締役副社長	大前トモ子
専務取締役	小林光
取締役	佐藤俊

監査役

常勤監査役	木下郁大
監査役	中村薫竹
監査役	富岡和治

執行役員

常務執行役員	竹本佳弘
執行役員	喜多見浩次
執行役員	川井隆史
執行役員	野津克忠



<http://www.medibic.com/>

当社はIR活動の一環として、ホームページによる情報発信の充実に努めています。

詳細な事業概要、ビジネスモデルの解説、財務データの適時掲載の他、会社説明会などのIRイベント開催についてもお知らせしています。

ぜひアクセスいただき、ご活用をお願いいたします。

●会社説明会ストリーミング

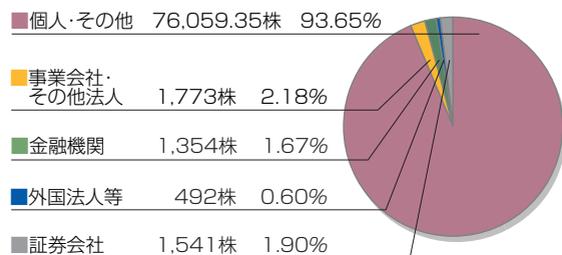
当社HP上にて、会社説明会の様子を動画配信でお伝えしています。経営陣の肉声による詳細な戦略解説や質疑応答を通して、よりわかりやすい形で当社をご理解いただけます。

株式の状況 (2005年6月30日現在)

株式状況

発行する株式の総数	154,944株
発行済株式の総数	81,219.35株
株主数	11,798名

所有者別株式分布状況



大株主 (上位10名)

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
橋本康弘	20,176	24.84
大阪証券金融株式会社(業務口)	1,266	1.56
松井証券株式会社(一般信用口)	629	0.77
株式会社アルテミス	520	0.64
大森謙一	340	0.42
小林光	322	0.40
マネックスビーンズ証券株式会社	314	0.39
田伏進	300	0.37
嶋田五百子	250	0.31
堤正俊	203	0.25

新株予約権付社債の状況

銘柄	発行年月	発行総額	累計行使額	行使率	転換価額
2007年満期円建株式会社メディック 転換社債型新株予約権付社債	平成16年10月	14億円	6億円	42.86%	116,000円

※転換価額については3ヶ月毎に調整を行っております。(標記価額は平成17年5月1日以降の適用価額となります。)

株主メモ

- 決算期 12月31日
- 定時株主総会 3月中
- 株主確定基準日 12月31日
- 株式の売買単位 1株
- 名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社 証券代行部
(お問合せ先) 〒171-8508
東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
三菱信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-707-696 (フリーダイヤル)
- 同取次所 三菱信託銀行株式会社 全国各支店
- お知らせ 住所変更、配当金振込指定・変更に必要な
各用紙、及び株式の相続手続依頼書
のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル
0120-86-4490及びホームページ
(<http://www.mitsubishi-trust.co.jp/kojin/daikou/daik01.html>)
にて24時間承っておりますので、ご利用下さい。
(証券保管振替制度をご利用の株主様は、
お取引の証券会社にお申し出下さい。)
- 公告掲載紙 日本経済新聞
- 証券コード 2369

(注) 三菱信託銀行株式会社は、平成17年10月1日付けで三菱UFJ信託銀行株式会社に商号変更する予定です。

MediBic

■ 当冊子についてのお問合せ先 ■

株式会社メディビック 管理本部

本社／〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2大同生命霞が関ビル8F TEL. 03-5510-2407

※2004年11月7日をもちまして上記に移転いたしました。

